



高い鼻と耳元まで張り裂けた口、鋭い目をした「トシドン」は、毎年12月31日の夜、子どもがいる家々を訪れる神様です。首のない馬に乗って、天道(天空)から高い山や大きな岩の上にやって来るといわれています。

屋外から「おるか、おるか、〇〇はおるか。来て障子を開けー。」と言って家の中に入り、子どもを威嚇したり、いたづらをしないようにしかったり、良い子になるように諭したりします(子どもたちの素行や行儀などの情報は事前に親から聞いておき、この情報を基にトシドンは子どもたちとやり取りします)。

そして最後に新しく迎える年を良い子であるように約束させ、その褒美に丸い大きなもちを与えます。このもちは年餅と呼ばれ、トシドンからもらうことによって無事に年を一つ取ることができるといわれています。



12月18日(木)、野下小学校で、薩摩川内元気塾が藤本小学校と合同で開催されました。セイカスポーツクラブの福田剛さんによる講話やソフトテニスの実技指導があり、早速児童ら19人が体験。初めてだった児童もすぐに慣れ、楽しんでいました。

下甕
ユネスコの無形文化遺産候補「甕島のトシドン」現る

樋脇
元気いっぱい！野下・藤本小学校薩摩川内元気塾



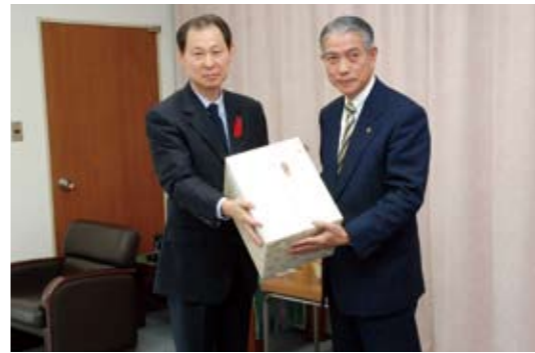
1月11日(日)、総合運動公園野球場で、本市で自主トレーニング中の福岡ソフトバンクホークス杉内俊哉投手、同山崎勝己捕手らによる野球教室が開催され、市内の小学生75人が参加。各選手の指導を受け、キャッチボールや捕球を練習。「ボールを相手に届けたいという気持ちを持って投げることが大事、毎日の練習の積み重ねでうまくなる」と杉内投手。子どもたちは選手の一言一言に、熱心に聞き入っていました。

13日(火)には、杉内投手が岩切市長を表敬訪問。今年で3回目となり、AED5台を寄贈しました。「薩摩川内市の施設は抜群に素晴らしい。来シーズンは日本一、WBCでは世界一を目指します」と同投手。また19日(月)には、山崎捕手と同じく本市で自主トレーニング中の本間満内野手が岩切市長を表敬訪問。それぞれのサイン入りバットが贈られ、「薩摩川内市は暖かくて過ごしやすく、施設の規模も大きい」などと話していました。市からは3選手に地元産の芋焼酎が贈られ、大変喜んでいただきました。

川内
シーズン本番に向けてプロ野球選手が本市で自主トレ

▲杉内投手を間近に少し緊張気味の子どもたち。勇気を出して質問タイム。
▲AED(自動体外式除細動器)の目録を渡す杉内投手

▶山崎、本間両選手からサイン入りバットのプレゼント



12月26日(金)、京セラ(株)鹿児島川内工場から本市社会福祉協議会へ歳末助け合い共同募金の贈呈がありました。昭和46年から同工場従業員の善意により続けられているもので、現金およびランドセルが贈られました。

川内
助け合いの心に感謝します。



「桜島(さくら)」で昨年歌手デビューした祁答院町出身の榎木美優さん。1月8日(木)、岩切市長を表敬訪問し、決意を語りました。「こんな時代、歌でみんなを元気にしたい。曲名は鹿児島のシンボル桜島。歌を聞いてふるさとを思い出し、大切にしてほしい」と榎木さん。岩切市長から、「看板娘としてい



ろいろな場面で市をPRしてほしい、頑張ってください」と激励されました。また、当日は母校の祁答院中学校などでミニライブを行い、生徒や保護者らを前に歌を披露。生徒には、「夢を持って頑張ってください」とエールを送っていました。

祁答院
ふるさと鹿児島を胸に歌い続けたい



樋脇地区では、毎年1月20日にそばを食べる「二十日そば」という風習があります。樋脇地区コミュニティ協議会とボランティアグループは、知的障害者援護施設新葉学園の園生らに、日ごろ地域行事に協力してくれるお礼として手打ちそばを振る舞いました。

樋脇
伝統行事「二十日そば」手打ちの新そばで交流会



西方海水浴場で、小学生から高齢者までの30人が参加し、泳ぎ初めがありました。参加者らは海岸清掃をした後、海の安全を祈願し、寒風吹き荒ぶ中、元気いっぱい海に飛び込んでいました。泳いだ後は、たき火とぜんざいで体を温めました。

川内
今年で20回目となる元日恒例の新春泳ぎ初め



市内各地から
冬の冷たい風に打たれても
肩を寄せ合い力強く咲きほこる
水仙の花
(平佐町)